

「北光会」創立90周年に向かって ～会の活性化と会費納入率の向上～

菊 地 芳 朗 (GS34)



先の「北光」でお知らせいたしましたように、元会長の狩野豊太郎さんが去る4月10日にお亡くなりになりました。狩野さんは9年間もの長きに亘り会長職をお勤めになり、その間学部創立75周年記念事業と鉱業博物館創立30周年記念事業の募金委員長としてご尽力されるなど

母校と北光会の発展に寄与されました。そのご功績に深く感謝申し上げますと共に謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて、今年の夏は異状気象でしょうか、今まで記憶にないほどの記録的なゲリラ豪雨で各地に被害をもたらし、最高気温の記録更新と連日の猛暑など何年にもない夏となりました。被害に遭われた皆様にはお見舞い申し上げます。

北光会は昭和3年に設立されて今年で創立85周年を迎えました。北光会設立の経緯やその後の活動については、創立80周年時の「北光」第141号（平成20年8月7日発行）の「巻頭言」に詳しく述べてあります。それに加えるとするば、平成23年に皆様のご協力の下に学部創立100周年記念事業を無事に終えたことです。

創立100周年も終わり、これからは北光会の長年の課題であります会費納入率の向上と主に若年層を対象とした会の活性化に取り組まなければなりません。

また、今年の総会で監事から「基金不足の懸念より一層の経費節減等の取り組みを求める」と指摘されております。このためにも会の活性化を行い会費納入率の向上に取り組まなければなりません。卒業生が同窓会に関心を持つ度合いをどのようにして見るか、これを示しているデータとして今私たちの手元にあるものは会費納入のデータだけあります。会費納入率を同窓会への関心度として見てみたいと思います。

これを見ますと、若年層の会費納入率の低さは一般的な傾向として知られておりますが、ここで見落としてならないことは各学科によって納入率に違いがあるということです。学科は時代と共に変遷しておりますが、これらを系列別に並べて見ますと明らかに学科によって納入率に差が見られます。これらの傾向は創立100周年の寄付納入率にも読み取ることが出来ます。

活性化の一助として、クラス幹事制度の導入、事務局長のブログ、北光会グッズの作成などを行うこととし、加えて北光会員が持っている技術を相互に活用する技術相談システムを発足することにしてあります。

会費納入についても65歳以上を対象とした永年会員会費や銀行口座自動振替などを導入いたしました。しかしながら会費の納入率は23年度の27.4%から24年度は24.7%と減少しております。原因を考えてみますと24年度は会誌の発行を3回から2回に減少いたしました。このことも納入率減少の一因と考えられます。

要するに、こまめにお願ひして行くことが必要ということです。会員にどのようにして訴えていくか、ホームページの活用など、これから検討していかねばなりません。

また、顧問と副会長を創立100周年記念事業の関係から企業と会員数の多い秋田と東京の会員にお願いしておりましたが、本年より広く皆様のご意見を伺えるように北海道、秋田、東京、東海・北陸、関西、九州の各支部の会員に広げてお願いしました。

5年後に北光会創立90周年を迎えます。先に申し述べました若年層の問題を念頭に90周年の記念事業として学生率会員を含めた若年層のためになる事業を考えたいと思っています。これから皆様のご意見を聞きながら検討することといたします。

今年も東北支部の納涼大会で仙台に伺った折、東日本大震災の被災跡を見ました。今年で3回目となりました。昨年は田圃に生い茂った草は刈り取られ、点在しておりました自動車やタンクなどの流出物は撤去され、避難していた地域には一部の住民の生活も始まっていました。

今年は居住している家屋も多くなり、畑を耕作しているところもありました。しかし、田圃は相変わらずの雑草で、復旧の調査をしているのでしょうか所々掘り起こされているところがありました。そこを見ますと海から流されてきたのでしょうか砂地でした。復旧は大変なことと感じてきました。

それでもこの辺は、徐々にではありますが復旧が進んできております。しかしながら福島原発は汚染水の処理で大変なことになっております。海外でも関心を持たれております。何か良い対策がないのでしょうか。

北光会は皆様の会費で維持されております。
会費納入率の向上にご協力ください。